



特集

使わなければただの紙  
使いこなせば守りがみ

# 家族の命は家族で守る

大雨の状況や住んでいる場所、家族構成や体調などによって、避難するタイミングや時間は異なります。長谷山さん一家は、新しいハザードマップを確認して、家族の防災行動計画「マイ・タイムライン」を作成し、家族のルールを見直しました。



**父** ハザードマップを見ると、長男の健留が通う小学校の裏には土砂災害の危険があり、避難所の地区センターへは川を渡って行かないといけません。健留が1番心配で、通学中なら「まず家へ」、「次に小学校、中学校」の順に避難を考えるよう伝えていきます。

**祖父** 生まれてからずっとここに住んでいます。昭和57年の台風の時なども幸いにも大きな被害に遭わずに済みました。可能な限り在宅避難をしたいと思っています。

## 家族で役割分担

**父** 家族全員で半年に1回、防災食の種類や個数をリストをもとにチェックし、賞味期限が近い物は、普段の食事と一緒に食べています。

災害時、自治会班長へ家族



長谷山さん家族  
左から  
長男 健留くん  
父 大吾さん  
祖父 勝尋さん  
祖母 みね子さん  
母 恵子さん  
次男 康生くん  
(潮海寺上)

## 在宅避難に備える

**母** 3年前の台風で停電した時は、家の水道とガスは止まらなかったのですが、あまり食事には困らなかつたです。万が一のために、カセットコンロは用意しています。

**父** 健留が小学1年生の時、学校でもらった防災の冊子に興味を持ち、毎月家族で防災について話し合っていました。

**母** 段々とマンネリ化していましたが、児童館で開かれた出前行政講座を健留が受け、家族の防災会議をやりたいた

## 防災リーダーは小学生

**母** 小学校から引き渡しの連絡が来たらずは私が、次に祖母が迎えに行くことになっていきます。他に、トイレの準備は祖父がするなど、いざという時の役割分担を家族で決めています。

## 家族で話し合うポイント

1. いつどこに避難するのか  
ハザードマップを確認して判断し、家族で共有しましょう。
2. どうなったら避難するのか  
警報が出たら避難するのか、子どもが家に1人で留守番している時はどうするのかなど、家族一人ひとりが判断できるようにしておきましょう。
3. 避難経路の確認  
家や避難場所が安全でも、そこまでの道のりで危険な場所はないか、どの道が安全かを把握しましょう。

## 長谷山家の役割分担

- ・防災食や持ち出し袋の確認  
…家族全員
- ・自治会班長に安否の報告  
…祖父
- ・子どもの引き渡し  
…まずは母、次に祖母
- ・トイレの準備  
…祖父